

ポポコ新聞

[Ponpoko News]

第 64 号



=発行=

2016年8月7日

喜多見ポンポコ会議

www.ab.auone-net.jp/~ponpoko



トネリコ

日本原産の落葉高木。昔は田んぼの畦に植えて稲架木として利用されました。シマトネリコは沖縄など暖地原産の常緑小高木。



ヒメシャラ

日本原産の落葉高木。パイオニア的な性質で、やや荒れた森林に出現します。凛とした涼やかな樹形と清楚な花が人気です。



アオダモ

山地に広く自生する落葉高木。堅くて強いが粘りがあるので野球のバット、枝や樹皮は藍色の染料として使われます。



ヤマボウシ

山地に普通に生える落葉高木。花・果実・紅葉と3回楽しめる果実はマンゴーのような甘さがあり、果実酒にも適します。



カキノキ

東アジア固有の落葉高木。禅寺丸は日本初の甘柿と位置付けられています。実は果実類の中で栄養価が特に高いとされます。



ユズ

東北以南で広く栽培される常緑小高木。消費・生産ともに日本が最大ですが、西洋料理にも柚子の使用が広まりつつあります。



センリョウ

常緑樹林下に自生する常緑低木。冬に赤い実をつけ美しく、特に名前がめでたいのでマンリョウとともに正月の縁起物です。



ムラサキシキブ

日本各地の林などに自生する落葉低木。果実が紫色で美しいので観賞用にも栽培されます。英名は「日本の美しい実」。



マンサク

日本各地の山林に自生し、観賞用にもされる落葉小高木。早春に咲くことから、「まず咲く」が東北地方で訛ったともいわれます。



サカキ

常緑小高木。語源は、神と人との境「境木(さかき)」の意であるとされ、枝は「玉串」として古くから神事に用いられています。

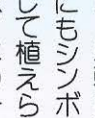
喜多見の特産品
農家の生業としては、**柿丸**という品種の柿が特に美味しく、江戸後期には特産品として出荷され市



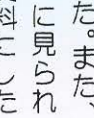
喜多見の生垣
屋敷の周囲に高垣として植えられた樹は**サンゴジュ**という常緑広葉樹が多く、厚く水分の多い葉や枝は火災の延焼防止にも適していました。冬につける赤い実がしだいに黒ずむようになると野鳥が食べに来る、喜多見ではそれが冬の風物詩の一つだったそうです。高垣には他に**シラカシ**や**ケヤキ**が植えられ、これらは燃料にもなりました。低い生垣としては**ヒバ**、**ツゲ**などが植えられ、畑の境などには**お茶の木**が植えられました。



喜多見らしい風景をつくる
場でも高い値で売れました。今でも旧家の屋敷の中に植えられているのを見ることが出来ます。



生活に役立つ樹
屋敷入口の脇には厄除けのためか必ず**ヒイラギ**が植えられました。また、母屋の北側(裏)に見られた**竹藪**は筍を食料にしたり、生活用具の用材、防火にも役立ちました。喜多見らしい風景をつくるために最も理想的なのは、これらの樹が植えられることだ。



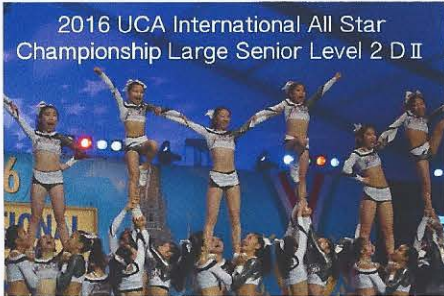
変化の植栽
しかし農地が宅地になり洋風の家が多くなると、植栽も変化してきました。一般的には、高くなりすぎない、病虫害に強い、落ち葉が少ないものが好まれているようです。そのような事情の中、古くから日本にあり、比較的小さいスペースにもシンボルツリーなどとして植えられるお勤めの樹が上の十種です。みどりをつないで喜多見らしい風景をつくりたい。

喜多見らしい風景をつくらう! ② 植栽

前号の「喜多見らしい風景をつくらう! ①」で整理したところ、喜多見らしい風景とは「歴史・文化」「農」「河川」が活きている風景でした。シリーズ2回目の今回は、このような風景をつくるには具体的になんのようにすればよいのかを家の周りの植栽に焦点をあてて考えてみます。

協力：砧園芸センター、池田造園、喜多見農家の石井さん、参考：世田谷区民俗調査第3次報告「喜多見」1983.3、写真：wikipedia 他

PINKY'S



今年3月に本場アメリカで優勝しました！

てっぺんを目指して

喜多見小学校や砧南小学校の生徒が所属しているチアリーディングチームが世界大会で優勝したという話を聞き、練習を見学させていただきました。

ランニングのあと練習開始。タンブリング(床運動)、組体操、ダンスなどに分かれてそれぞれにコーチが付き、みんな真剣な表情で一生懸命体を動かしています。組体操は下(土台になる人)が3人、てっぺんになる人が一人です。練習を重ねて、てっぺんになる人、なれなくて悔しい思いをする人。それでも下の3人がしっかりしていないとその技は成り立たないので、てっぺんの人にも下の経験をさせるそうです。

信頼関係が大切

新館祐子コーチにお話を伺いました。コーチ自身も日本体育大学でチアリーディングをされていたそうです。「チアを通じて人間として大事なこと“約束を守る”、“感謝の気持ち”、“礼儀”、“言葉遣い”などを教えています。あれ

ができない、これができない、では叱りませんが、約束を破ったり、言われたことをやらなかった時にはきつく叱ります。チアはお互いの信頼関係がとても大切です。そうでなければ、手や肩に人を乗せたり乗ったりはできません。メンバー約80名の性格、家族構成なども把握し、心の変化にも気を配っています。チアを教えるというよりも、チアを通して子どもを育てている感覚です」「この子達が大人になって、チアの魅力をまた広めていってくれたら、とても嬉しいです」

皆でうまくできると楽しい

チームの一人、木村日菜多さん(小学6年生)にインタビューしてみました。

— 何歳から始めましたか？

「3歳(年少)から。保育園の友達がチアを始めるというので、よく分からないまま一緒に始めました」

— 楽しい時はどんな時ですか？

「新しい技ができた時、皆でうまくできた時です。大会は緊張するけどとても楽しいです。一生懸命練習して、チームで頑張っ、チームワークが深まることも嬉しいです」



レッスン案内

【内容と日時】

○チアリーディング

幼稚園児、小学1,2年 木曜16～17時
小学3年生以上 木曜18時半～21時

○タンブリング

小学1年生以上 火曜18時半～21時

【場所】 砧南中学校体育館など

【問合せ】 setagaya.pinkys@gmail.com

農地を都市に「あるべきもの」へと転換

都市農業振興基本計画



国土交通省の概要資料にも掲載された風景

5月13日、「都市農業振興基本計画」が閣議決定されました。この計画は、都市農業振興基本法に基づき、都市農業振興についての基本的な方針や政府が講ずべき施策等を定めたものです。都市農地を農業政策、都市政策の双方から再評価し、これまでの「宅地化すべきもの」とされてきた都市農地を、都市に「あるべきもの」ととらえることを明確にしました。計画を担当する国土交通省都市局都市計画課の井村久行さんにお話を伺いました。

「早朝の喜多見を自転車で回ったことがあります。農地だけでなく寺社の緑や保存樹が一体となり、視界に緑が多く入ってくるのが新鮮でした。喜多見4・5丁目では、既に東京都と世田谷区により『農の風景育成地区』としての先駆的な取り組みが進められています。基本法や基本計画を踏まえて、今後も農地・緑の保全に向けた取り組みが、より一層進展することを期待しています」
これからは喜多見産の新鮮な野菜や果物を食べて応援したいと思います。

世田谷区ラグビースクールから

リオ五輪へ



リオデジャネイロ五輪の7人制ラグビー女子日本代表に、世田谷区ラグビースクールレディース所属の富田真紀子さんが選ばれ、加藤慶子さんもバックアップメンバーになりました。富田さんは勤務先であるフジテレビの長い階段でダッシュして鍛えているそうです。試合は現地時間で8月6日(土)～8日(月)に行われる予定です。

みんなでつくる野川その後

効果と課題を検証



東京都が進めている野川の河床整備工事について、スライドダウンという工法に変わり5年が経ちました。そこで今年度、整備済み区間について効果と課題を検証することになりました。これには悪臭や地下水も含まれる予定です。

INFORMATION

事前調査&ごみ拾い

【日時】 8月11日(山の日) 7:00～9:00

【持物】 長靴、ゴム手袋

夏の野川ガサガサ

【日時】 8月20日(土) 10:00～12:00

【持物】 長靴または濡れてもいい靴

【申込】 喜多見児童館 tel. 3417-9151

※ どちらも次大夫堀公園築山横の野川階段集合